

## 森松グループ

## VISION

## 年輪のある企業になる、自分になる

## 【森松グループビジョンへの想い】

「年輪のある企業になる、自分になる」とは

年輪は木を切ったときに断面に現れる円状の模様で、毎年一つずつ形成されます。

年輪があることでその木の成長の過程を見ることができます。

では企業や人における年輪とは？

立ち止まらず、継続的に成長すること、発展することです。

企業の発展はそこで働く人々の成長なくしてはありえません。

企業も、人も共に成長していく。

つまり毎年年輪を作っていくことが我々のビジョンです。

## 発展と継続

森 直樹（社長）



2月より東京オフィスが移転し、新橋から東日本橋へと移りました。周辺は化学系、繊維系の企業もあり、落ち着いたイタリア街の中で仕事をしていた旧オフィスとは、また雰囲気が大きく変わりました。床面積も大きくなり広々としたオフィスですが、いずれここがまた手狭になるような東京の拡大発展を目指し、新たなスタートを切って参ります。また同時に、営業に新メンバーも1名迎え、6人体制となりました。名古屋、東京2拠点で共に成長していきましょう。私の双子の息子たちが、近々小学校を卒業します。卒業文集の原稿をそれぞれ読み、自分の12歳の息子が書いたとは思えないような内容に驚きました。書かれたテーマは小学校の出来事であり、12歳の子供が見た視点ではありますが、その表現力や臨場感あふれる文体に、果たして私自身、12歳でこのような文章を書いていたかと言うと、甚だ疑問です。素直に感動し、自分の子供の成長を肌で感じる事ができました。4月より中学校に進学し、これからまた様々な困難にも直面するかと思いますが、彼らの好奇心や持ち前の明るさで乗り越えていけると信じております。自分自身、長年波紋原稿を書いておりますが、果たして自分の文章が成長し続けているかと思うと、これまたかなり自信がありません。まず継続することですが、それと同時に、より伝わる文章はどのようなものかということを考えて、今後も書き、発信し続けていきます。

## ほどなく、お別れです

吉岡 孝記（営業部）



去年、国宝を見た後、久しぶりに、ほどよく、おわかれですという映画を見てきました。「小学館文庫小説賞」大賞を受賞した長月天音のベストセラー小説を映画化した作品です。妻をいきなり事故で亡くした主人公が、この受け入れがたい経験をしたことで、同じような境遇の人たちの心を少しでも和らげたいと、遺族に寄り添った葬儀をしていました。また、死者が見えるという、就職活動をしていた女性と出会い、スカウトして一緒に働き始めます。いろんな事情を抱えた遺族と死者に向き合い奮闘する話でした。通常の葬儀社ではありえないところもありましたが、永遠の別れを遺族が受け入れ、未来に進んでいく姿が涙を誘います。劇中で「悔しさも怒りも、悲しみの一部」という言葉が刺さりました。私もこの年になると、たくさんの葬儀に参列しました。若い人が事故などで亡くなった葬儀は、本当にこちらもつらくなりました。私の父が亡くなったときを思い起こすと、ある程度は覚悟していたので、心の準備ができており、悔しさはありましたが、受け入れることができました。ただ、初めての喪主でいろんなことを決めたり覚えたりと忙しく、なかなか悲しむ時間ありませんでしたが、葬儀社の方に良くしていただきました。感謝しております。劇中で、葬儀とは、故人のためというより遺族が「納得するための時間」なのだということが、なんとなくわかりました。葬儀とは、死者を思い弔い、遺族が新たに未来へ進む儀式でしょうか。私もあと何年かするとお迎えが来ます。娘に少しでも負担をかけないようにしないと思うこの頃です。鼻が詰まって困っていましたが、映画を見た後は鼻がズルズルでした。泣きたい方にはぜひおすすめです。

## 真冬の衆院選挙

大石 耕平（東京オフィス）



私は化成品商社の営業。現場は毎日のように誰かの精神が炎上している場所で、身の丈に合わない肩書きより中年太りの体と四十肩のほうがよほど重い。肩の可動域は古いロボットのプラモデル並みで、年齢の実感だけは妙に正確だ。重たいのは責任よりも関節なのだと、最近よく思う。先日、大先輩に誘われてカラオケへ行った。部屋には人生の残り香のような匂いがこもり、壁は歌声よりも後悔や愚痴を吸い込んできたように見える。先輩はビール、私はホット烏龍茶。温度差がそのまま人生経験の差のように感じられた。先輩はリモコンを握ったまましばらく黙り込み、やがて思い出したように「選挙、行ったか」と切り出す。長年支持してきた側が受け入れ難い相手と組み、かといって与党にも入れたくない。他の政党も違いがよくわからない。迷い続けた末、「しかたなく」与党に入れたという。その言い方は納得ではなく、決断の形をした諦めに近かった。政治に詳しいわけでも、無関心でもない。ただ、しっくりくる選択肢が見当たらないだけだと。強い支持がない人ほど迷いは深くなる。それでも何かを選ばなければならない感覚は、どこか今の社会の空気に似ている。全面的には賛成できないが、空白のままにもできない。わずかな期待と同じくらいの不安を抱えたまま、私たちは選択の側に立つ。先輩の言う「しかたなく」は、個人の事情というより、時代の温度のようにも思えた。先輩の歌が終わり、私は軽く拍手してリモコンを受け取る。沈んだ空気を少しだけ持ち上げたくて、画面に流れ出したのは『ultra soul』。先輩は「いいな」と小さく笑い、部屋の空気もわずかに前を向く。理由はなくても、前を向く瞬間はある。そうして私たちは、それぞれの現場へ、また日常へ戻っていった。



今年の初詣は、名古屋市にある熱田神宮へ行ってきました。熱田神宮は約1900年の歴史を持つ由緒ある神社で、三種の神器の一つである草薙剣をお祀りしていることで知られています。戦国時代には織田信長が戦勝祈願を行ったとも言われるなど、長い歴史の中で多くの人に大切にされてきた場所です。境内は多くの参拝者でにぎわっており、新年らしい活気にあふれていました。冷たい空気の中、順番を待ちながら、昨年が無事に過ごせたことへの感謝と、一年の健康をしっかりと祈願。友達とみんなで今年のやりたいことリストなどを話し合いつつ、改めて気持ちを引き締め、気持ちを新たに作る時間になったように思います。そして毎年楽しみにしているのが、境内に並ぶ出店です。つい、あれこれと手が伸びてしまい、非日常の光景にワクワクしてしまいます。歴史ある厳かな雰囲気と、どこかお祭りのようににぎわいを同時に味わえるのも初詣の魅力だと感じます。気持ちもお腹も満たされ、良い一年のスタートになりました。今年も前向きに、感謝の気持ちを忘れず、日々取り組んでいきたいと思っています。



## ウォーキング

吉田 翔 (森松産業)



最近、運動不足を解消しようと思い、できるだけ歩くようにしています。普段はデスクワークが中心のため、意識しないと一日の歩数が驚くほど少ないことに気づきました。そこで、休日は少し遠回りをして帰ったり、エレベーターではなく階段を使ったりと、無理のない範囲で体を動かすようにしています。最初は三日坊主になるのではないかと考えていましたが、外の空気を吸いながら歩く時間は意外と良い気分転換になります。季節の変化や街のちょっとした風景に目が向くようになり、これまで気づかなかった発見もあります。歩いている間は頭の中も整理されるようで、心身ともにすっきりする感覚があります。普段はついスマートフォンを見てしまいがちですが、歩いているときはなるべく画面を見ず、周囲の景色や音に意識を向けるようにしています。特別なトレーニングをしているわけではありませんが、「まずは続けること」を目標に、日々コツコツ取り組んでいます。歩数計の数字が少しずつ増えていくのを見ると、小さな達成感も感じられます。また、体を動かすことで夜の眠りが深くなったように感じる日もあり、生活全体のリズムを整えるきっかけにもなっています。目的地を決めずに歩くと、新しいお店を見つけたり、思いがけない道に出たりと、小さな冒険のような楽しさもあります。こうした時間が、日々の良いリフレッシュになっています。



# 森松グループ 新入社員のご紹介

名前 ☆寺本 祐輝 (てらもと ゆうき) ☆

趣味 ☆ドライブ・映画鑑賞☆

## 自己紹介

1月に入社させていただきました寺本と申します。

前職は、自動車部品の製造・パッキングアスケットの製造をしていました。これまでの経験を活かし、少しでも早く会社に貢献できるよう頑張ります。

よろしくお願いいたします！

## 先輩からメッセージ

入社おめでとうございます！まだまだ分からない事だらけだと思いますが、共に成長していけるように頑張りましょう！

## 続・ウォーキング始めました

円道 陽子 (森松産業)

一年ほど前になりますが、この社内報「波紋」でウォーキングを始めたことを書きました。言葉に表すことで自分自身を鼓舞し、継続していこうと私自身に言い聞かせるためでした。しかし、昨年秋の軽いぎっくり腰をきっかけに、ウォーキングに行く回数が減っています。接骨院の先生には、無理しなければ軽い運動もOKと言われていますが、接骨院への通院や日々の慌ただしさが、行く気を失わせてしまっています。ちょっとした動きから人生で初めてぎっくり腰になり、その後痛みが続いたことが不安にもなりました。今は痛みも落ち着いたので、またそろそろ運動も再開したいと思っています。春になれば、日中は寒さも和らぎ、花が咲き始め、歩いていても気持ちがいいです。去年の春は、実家の半田市にある、桜で有名な雁宿公園にもウォーキングに行きました。ソメイヨシノは散り始めていましたが、シダレザクラがきれいに咲いていました。この公園は小高いところにあり、私が子供の頃は遠足や写生大会でも訪れました。数年前に新しくできた展望台からは半田の町並みが見えます。住んでいたころは何でもない景色でしたが、今は新鮮に感じられます。今年もまた坂道を登って、桜を見に行きたいです。そのためには、ウォーキングで足腰を鍛えなければいけません。まだまだ歩いて行きたいところがたくさんあるので、歩いて、健康でいたい!!雁宿公園の坂と清水寺の坂や階段が登れなくなったら、楽しみが減ってしまいます。歩こう!!と、またここで気持ちを新たにしていこうと思っています。

